

編集・発行責任者:木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1-A-201
Fax&Tel 03-3482-5257 / E-Mail: kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

今なぜ情報提供施設か
今回の討論集会では、昨年から新たにできた第十三分科会『聴覚障害者関連施設』の分科会に参加した。昨年この分科会では、どんぐりから本間君が「仲間の自立支援」をテーマにレポート発表している。主に各地のうつ重複施設における問題提起がなされた。今年は、加えて情報提供施設の役割とその取り組みについて議論することとなつた。

正直言つて、うつ重複施設と情報提供施設を二つちやに議論する事に抵抗があった。しかし、議論する中で「今なぜ情報提供施設なのか」ということがおぼろげながら分かつてきたり。日本福祉を取り巻く環境が大きく変わつとして

社会福祉基礎構造改革
同じ時期「東京都財政健全化計画
全化計画実施案」がまとまり、この年の十一月二十二日に行われた東京支部定例学習会のパネルディスカッショング青島さんいじわるはマンガだけにしてよ“東京の福祉がヤバイ”と

福基改を進める
今年十一月に出た「社会
情報提供施設を地域福祉
長期的展望ある運動を
取り組みを」とはこのこと
だつたのかと気づいた集会
でもあった。(集会報生は
別途作成中です)

全通研岐阜集会に参加しました!

いる、このことに気づかされたのが今集会に参加しての一番の収穫だつた。

一昨年の夏から始まつた。一九七九年八月厚生省に設置された「社会福祉事業等のあり方にに関する検討会」は、十一月「社会福祉の基礎構造改革について(主な論点)」を提出。この時、今後の社会福祉法人の果たしていくべき役割、意義などについて見直しが必要であると提起していた。

感じながら、僕はそれを曰本全体の流れだとは理解していなかつた。

施設福祉から地域福祉へ半年後の一九八八年六月、「社会福祉基礎構造改革について(中間まとめ)」発表。ここで明らかになつたのが「施設から地域福祉へ」『措置から契約へ』といふ福祉の方向性、『効率化』『受益者負担』という考え方だつた。

僕は、そんなヤバイ状況を全く知らずにいた。四月の人事異動以来仕事が忙しくなつたのにかまけて私の情報源である「福祉広報」(東京都社会福祉協議会発行)を読むことをすっかりサボつていた。

長期的展望ある運動を

情報提供施設を地域福祉

はやたらと『福祉サービス』という言葉が目立つ。いずれの資料も僕はまだ十

分読みこんでいない。勉強の緊急性を痛感した。そんな福祉の流れに対する上で聴覚障害者関係で有効な手段となるのが情報提供施設なのではないか、というのが岐阜集会事務局の問題提起だつたよつだつたり『施設』建設は今後ますます難しくなつてくる、といふことなのだ。

はやたらと『福祉サービス』という言葉が目立つ。いずれの資料も僕はまだ十

3月6・7日(土・日)耳の日文化祭でもかたつむりバザー等があります。是非おいでください!